

九州南部から得られた キイトゲアシガニ（十脚目：短尾下目：トゲアシガニ科）

是枝伶旺¹・斉藤洪成²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

はじめに

キイトゲアシガニ *Percnon guinotae* Crosnier, 1965 はインド・太平洋に広く分布し、潮間帯から潮下帯浅所に生息することが知られる（丸山・小坂, 2003; Poupin et al., 2018）。日本国内において本種は、丸山・小坂（2003）による永井誠二が収集したカニ類標本目録の中において和名が提唱され、以降はこれを含む散発的な目録記録が知られている（丸山・小坂, 2003; Takeda and Komatsu, 2023）。2024年2月から2025年3月にかけて、キイトゲアシガニが九州南部に位置する薩摩半島南岸から採集された。本種の出現はこれまでに九州沿岸から知られていないため、ここに報告する。

材料と方法

採集調査はタモ網を用いて3-4人でおこなった。得られた標本は70-80%エタノールで固定した。この際、一部の標本は固定前に氷冷麻酔をおこない、生鮮時の色彩を撮影した。甲幅の最大幅を甲幅（CW）とし、デジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで計測した。本研究に用いた観察標本およびカラー写真は鹿児島大学総合研究博物館（KAUM: Kagoshima University Museum）に保管されている。

結果

トゲアシガニ科 *Percnidae* Štević, 2005

トゲアシガニ属 *Percnon* Gistel, 1848

キイトゲアシガニ *Percnon guinotae* Crosnier, 1965

(Figs. 1-3)

標本 6個体（甲幅20.6-27.6 mm）。KAUM-AT. 3556, 雌, 甲幅27.6 mm, KAUM-AT. 3557, 抱卵雌, 甲幅25.0 mm, KAUM-AT. 3558, 雄, 甲幅20.7 mm, 水深0.1 m, 2022年2月11日, 徒手, 是枝伶旺; KAUM-AT. 3559, 雌, 甲幅21.7 mm, 水深0.1 m, 2025年2月1日, たも網, 久木田直人; KAUM-AT. 3560, 雌, 甲幅25.2 mm, 水深1 m, 2025年3月1日, たも網, 是枝伶旺; KAUM-AT. 3561, 雄, 甲幅20.6 mm, 水深0 m, 2025年3月1日, 徒手, 是枝伶旺。

同定 検討標本は、口前部（epistome）が1棘であることがCrosnier (1965) および Boyko and Liguri (2015) の示した *Percnon guinotae* の形態的特徴に一致し、本種に同定された。本種はこの形態的特徴において同属他種から容易に識別される（Crosnier, 1965; Chen, 1977; Boyko and Liguori, 2015）。

分布 キイトゲアシガニはマダガスカル産のタイプ標本を元に記載され（Crosnier, 1965）、インド・太平洋に広く分布し（Crosnier, 1965; Poupin et al., 2018）、日本国内からは小笠原諸島（Takeda and Komatsu, 2023）、和歌山県潮岬（丸村・小坂, 2003）、鹿児島県薩摩半島（本研究）、沖縄県八重山諸島〔黒島（丸村・小坂, 2003）、西表

Koreeda, R. and H. Saito. 2025. First Kyushu records of *Percnon guinotae* (Decapoda: Brachyura: Percnidae) from southern Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 1-4.

✉ RK: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24, Korimoto, Kagoshima, 890-0065, Japan. (e-mail: k4920583@kadai.jp).

Received: 1 May 2025; published online: 1 May 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-001.pdf

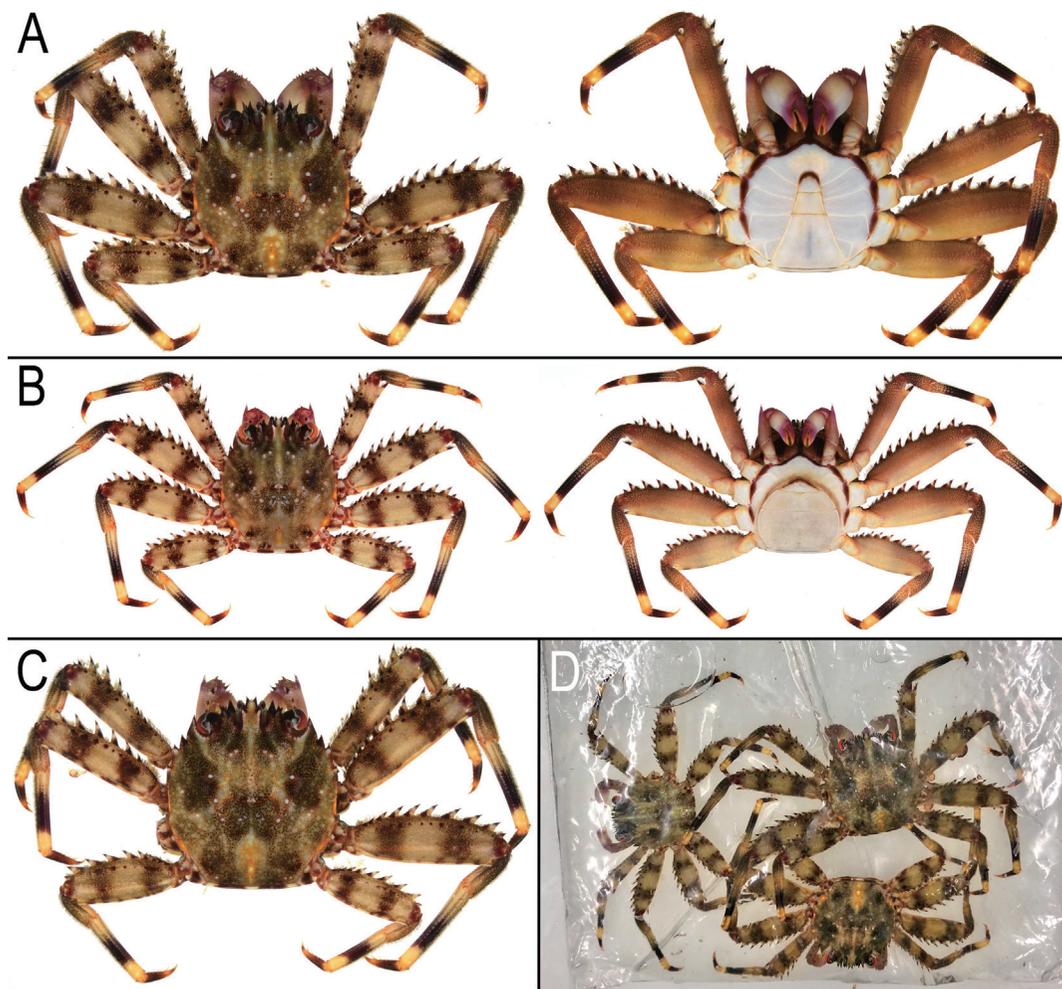


Fig. 1. Fresh specimen of *Percnon guinotae* (A, KAUM-AT. 3561, CW 20.6 mm; B, KAUM-AT. 3559, CW 21.7 mm; C, KAUM-AT. 3560, CW 25.2 mm; D, KAUM-AT. 3556–3558, CW 20.7–27.6 mm) from Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan.

島 (峯水, 2000 : 後述) から記録されている。

採集時の状況 検討標本は南九州市穎娃町別府沿岸において、大潮干潮時に、汀線付近に位置するタイドプール群や、潮下帯 (水深 1 m 付近) に位置する岩盤の割れ目から主に採集された。同タイドプール群ではプールごとに 1–3 個体がまばらに生息する様子が確認された。潮下帯に位置する岩盤の割れ目からは、本種の複数個体の生息が観察された (Fig. 3A)。また、1 個体 (KAUM-AT. 3561) は干潮時に干出した転石帯から採集され (Fig. 3B)、同所では多数のトゲアシガニ *P. planissimum* (Herbst, 1804) が採集された。

備考 本種は眼が赤いことによってミナミト

ゲアシガニ *Percnon abbreviatum* (Dana, 1851) を除く日本産の同属他種 [トゲアシガニ, ヘキガントゲアシガニ *P. affine* (H. Milne Edwards, 1853)] と識別される (Manning and Fenner, 1990; Poupin et al., 2018; 齊藤・村瀬, 2024)。一方で、本種の眼以外の色彩については、同属他種との比較検討を行うための識別形質として認知されていなかった (e.g. Crosnier, 1965; Poupin et al., 2018)。調査標本の観察を通じ、本種は甲の背面に境界の不明瞭な濃褐色域と淡褐色域があること、鉗脚は指部が紫色で掌部が白から淡褐色を呈すること、歩脚の長節の上面には基部から末端にかけて淡褐色域 3 つと濃褐色域 2 つが交互に並ぶこと、歩脚の前節の

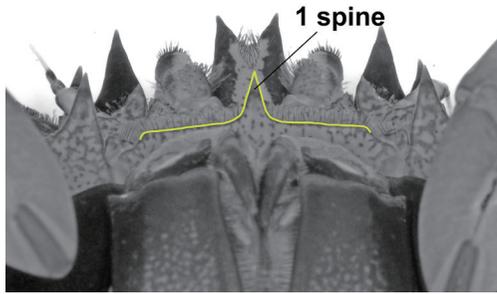


Fig. 2. Ventral view of *Percnon guinotae* (KAUM-AT 3560, CW 25.2 mm), showing the shape of epistome.

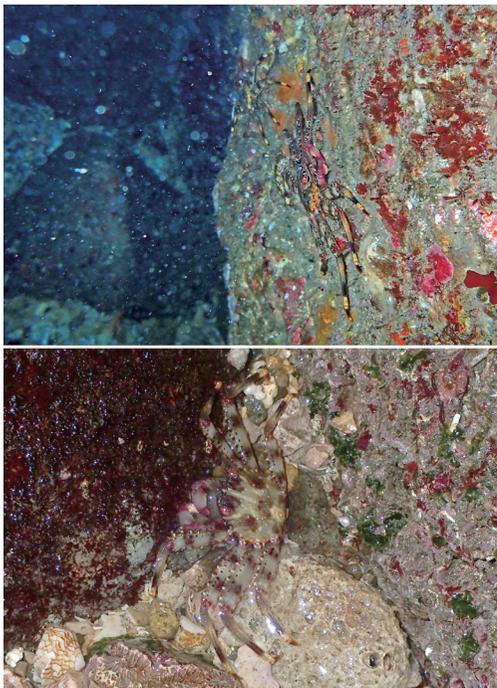


Fig. 3. Live individuals of *Percnon guinotae* (A, uncollected, 1 m depth; B, KAUM-AT 3561, 0 m depth), taken in Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan.

基部側が淡褐色で、中央部が濃褐色を呈し、先端部が黄色であること、指節は大部分が濃褐色で、先端のみ黄色であることが確認された。これらの形質は本種と同属他種を識別する際に有用である可能性があり、今後の比較研究が望まれる。

永井・野村 (1988) は“*Percnon abbreviatum* Dana”として水中写真をもとに示した種に対し、和名「クロシマトゲアシガニ」を提唱した。一方で、永井・野村 (1988) が図示した個体は、眼が

赤く、鉗脚は指部が紫色で掌部が白く、歩脚前節末端は黄色いことで本研究が示したキイトゲアシガニ *P. guinotae* の特徴と一致する。よって、和名クロシマトゲアシガニは *P. abbreviatum* ではなく、実際には *P. guinotae* に対して提唱された可能性が考えられる。一方で、本研究では確かな *P. abbreviatum* の標本を参照できなかったため、永井・野村 (1988) が示したクロシマトゲアシガニと *P. abbreviatum* との相違点を示すことはできなかった。なお、現在では *P. abbreviatum* に対応する和名として、Takeda and Iwasaki (1983) の提唱したミナミトゲアシガニが広く用いられている (例えば、Takeda and Komatsu, 2023; 斉藤・村瀬, 2024)。以上の学名と和名の対応関係の混乱を解消するために、今後の *P. abbreviatum* と *P. guinotae* の標本に基づく比較研究が望まれる。

峯水 (2000: p. 304) がミナミトゲアシガニ *P. abbreviatum* として図示した個体は、口前部が1棘であること、眼が赤く、鉗脚は指部が紫色で掌部が白く、歩脚前節末端は黄色いことによりキイトゲアシガニに再同定された。

キイトゲアシガニの記録は分布の項で述べた通りであり、薩摩半島産の標本に基づいて九州沿岸から本種が新たに記録された。本種は薩摩半島南岸において2024年から2025年にかけて継続的に観察されていることに加え、2024年2月11日には抱卵した雌個体 (KAUM-AT. 3557) が得られていること、2025年では多数の個体が確認されたことから、同地における定着・再生産の可能性が示唆された。

謝 辞

本報を取りまとめるにあたり、古橋龍星氏 (鹿児島大学連合農学研究所)、金井聖弥氏 (鹿児島大学農林水産学研究所)、前田知範氏 (鹿児島大学水産学部)、久木田直斗氏 (鹿児島県) には採集調査にご協力頂いた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の本村浩之博士と大西聡子氏には標本の登録にご協力頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究の一部はJSPS科研費 (24KJ1838) の援助を受けた。

引用文献

- Boyko, C. B. and A. Liguori. 2015. Grapsoid and Gall crabs (Crustacea: Brachyura: Grapsoidea and Cryptochiroidea) of Easter Island. *Pacific Science*, 69(4), 509–523.
- Chen, H. 1977. A new species of *Percnon* (Crustacea: Brachyura) from the Hainan Island, Guangdong province, China. *Acta Zoologica Sinica*, 23: 377–380.
- Crosnier, A. 1965. Crustacés Décapodes. Grapsidae et Ocypodidae. *Faune de Madagascar*, 18: 1–143, pls. 1–11.
- Manning, R. B. and F. A. Chace. 1990. Decapod and Stomatopod Crustacea from Ascension Island, South Atlantic Ocean. *Smithsonian Contributions to Zoology* 503: v + 91 pp.
- 丸山真弘・小阪 晃. 2003. 永井誠二コレクションカニ類標本目録. 和歌山県立自然博物館, 海南. 74 pp.
- 峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド海の甲殻類. 文一総合出版, 東京. 344 pp.
- 永井誠二・野村恵一. 1988. 新星図書シリーズ 沖縄海中生物図鑑 7. 新星図書出版, 浦添, 250 pp.
- Poupin, J., R. Cleve, J.-M. Bouchard, V. Dinhut and J. Dumas 2018. The crabs from Mayotte Island (Crustacea, Decapoda, Brachyura). *Atoll Research Bulletin*, 617: 1–109.
- 齊藤洪成・村瀬敦宣. 2024. 宮崎県から採集された日本初記録のトゲアシガニ科ヘキガントゲアシガニ (新称). *日本生物地理学会会報*, 79: 64–67.
- Takeda, M and H. Komatsu. 2023. Updated Checklist of the Crabs (Crustacea: Decapoda: Brachyura) from the Sea around the Ogasawara Islands, Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series A (Zoology)*, 49: 161–178.
- Takeda, M. and K. Iwasaki. 1983. Remarkable crabs from the Ryukyu Islands (1). *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 38: 1–12.